

分野 (領域)	専門分野Ⅱ 【小児看護学】	科目名	小児看護学方法論Ⅱ	
単位 (時間)	1 (30時間)	開講時期	1年次	2年次 3年次
講師	外部講師・専任教員			
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病・障害に対して子どもと家族が示す反応について、健康問題や発達段階による特徴を理解し、必要な看護を考えることができる。 2. 小児における疾病の経過と看護について理解することができる。 3. 子どもの基本的特性を理解し、症状のアセスメントと看護について学ぶことができる。 4. 検査・処置を安全で安楽に行うための技術と、検査・処置の進行に伴ってあらわれる身体変化や症状について理解できる。 5. 小児看護のなかで外来看護の果たす役割と、小児の入院と小児・家族への影響について理解することができる。 6. 生活に影響を及ぼす健康問題をかかえる小児の看護について理解することができる。 7. 障害の概念、障害児と家族の特徴、社会的支援など、障害児看護の基本知識を学ぶことができる。 8. 小児の成長・発達をふまえて、身体アセスメントに必要な技術の方法を理解することができる。 			
【講義内容】 第2章 新生児の看護 A.看護総論 C.疾患をもった子どもの看護 1.低出生体重児の看護 2.新生児仮死がみとめらる子どもの看護 3.高ビリルビン血症の新生児の看護 第3章 代謝性疾患と看護 A.看護総論 C.疾患をもった子どもの看護 1.1型糖尿病を持つ子どもの看護 2.2型糖尿病をもつ子どもの看護 第4章 内分泌疾患と看護 A.看護総論 C.疾患をもった子どもの看護 1.下垂体疾患の子どもの看護 2.先天性副腎過形成症の子どもの看護 3.甲状腺疾患の子どもの看護 第5章 免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護 A.看護総論 C.疾患をもった子どもの看護 1.食物アレルギーの子どもの看護 2.気管支喘息の子どもの看護 3.若年性特発性関節炎の子どもの看護 第6章 感染症と看護 A.看護総論 1.子どもの感染に関する基礎的知識 2.病気別の一般的看護 3.感染症をもつ子ども看護のポイント C.疾患をもった子どもの看護 1.麻疹の子どもの看護 2.風疹の子どもの看護 3.流行性耳下腺炎(ムンプス)の子どもの看護 4.水痘の子どもの看護 5.髄膜炎(ウイルス性/細菌性)の子どもの看護 6.百日咳の子どもの看護 7.ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群の子どもの看護 8.急性灰白随炎(ポリオ)の子どもの看護 第7章 呼吸器疾患と看護 A.看護総論 C.疾患をもった子どもの看護 1.かぜ症候群の子どもの看護 2.肺炎の子どもの看護 第8章 循環器疾患と看護 A.看護総論 C.疾患をもった子どもの看護 1.ファロー四徴症の子どもの看護 2.川崎病の子どもの看護 第9章 消化器疾患と看護 A.看護総論 C.疾患をもった子どもの看護 1.形態異常のある疾患の子どもの看護 2.その他の消化器疾患の子どもの看護 第10章 血液・造血器疾患と看護 A.看護総論 C.疾患をもった子どもの看護 1.貧血のある子どもの看護 2.出血傾向のある子どもの看護 3.輸血療法を必要とする子どもの看護 4.再生不良性貧血の子どもの看護 5.血友病をもつ子どもの看護 第11章 悪性新生物と看護 A.看護総論 1.診断時の看護 2.治療を受ける子どもの看護 3.入院から退院、自宅での生活への移行時期の看護 4.再燃・再発時の看護 C.疾患をもった子どもの看護 1.白血病の子どもの看護 2.神経芽腫の子どもの看護 第12章 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 A.看護総論 1.腎疾患の急性期の看護 2.腎疾患の慢性期の看護 3.泌尿器疾患総論 C.疾患をもった子どもの看護 1.腎疾患をもつ子どもの看護 2.泌尿・生殖器疾患をもつ子どもの看護 第13章 神経疾患と看護 A.看護総論 C.疾患をもった子どもの看護 1.けいれんのある子どもの看護 2.脳性麻痺の子どもの看護 3.水頭症・二分脊椎の子どもの看護 4.進行性神経筋疾患の子どもの看護 5.中途障害の回復過程とリハビリテーション 小児臨床看護総論 第4章 子どものアセスメント A.アセスメントに必要な技術 B.身体的アセスメント 第6章 検査・処置を受ける子どもの看護 A.検査・処置総論 B.薬物動態と焼く要領の決定 C.検査・処置各論 第7章 障害のある子どもと家族の看護 A-障害のとらえ方 B.障害のある子どもと家族の特徴 C.障害のある子どもと家族の社会的支援				
【テキスト／参考文献】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論[1] 第3章～第4章 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第1章～第20章				
【評価】 学科試験 筆記；100点をもって満点、60点をもって合格とし、60点未満を不合格とする				